

輝け！シン尾花沢中

第31号

令和7年

5月26日

長根の山の ふもとほら 遠いゆかりの おもだかの

タイトルデザイン
教育指導室
伊藤瑞稀さん

「自主学習ノート」による学習③-1～教科書を正しく読む～

今回は「選択式家庭学習」の3つ目の提案、リーディングスキル（RS）ノートの紹介です。学習のよりどころとなるのは「教科書」です。しかし、私たちは「教科書」をきちんと読むことができているでしょうか。この疑問から「汎用的読解力」を提唱し、リーディングスキルテストを開発したのが、国立情報学研究所社会共有知研究センター長・新井紀子教授です。

新井先生には、令和5年度に尾花沢市内の先生方に講義していただきました。今年度も夏にいらしていただき、講義していただく予定です。

このリーディングスキルテストの結果を受けたフィードバックに基づき作成される自主学習ノートのことを、「RSノート」といいます。

今号と次号の2回にわたり、「RSノート」による自主学習の仕方を説明します。



汎用的読解力とは

係り受け解析

→主語と述語をつなげられる

=「何が、どうした」という文の基本構造を読み解く力を測ること

照応解決

→「それ」が指すものがわかる

=指示語が示している言葉や省略された主語や目的語を正しく把握する力を図ること

同義文判定

→2つの文が同じ意味かわかる

=2つの文章の意味が同義化異議かを判定する能力を測ること

推論

→常識を使って判断できる

=論理力で「見たことがない、見ることができないもの」に関する言説が正しいか否かを判断する力を図ること

イメージ同定

→図の意味を説明できる

=テキストと非テキストの情報をつなぐ力を図ること

具体例同定

→言葉や数学用語の定義がわかる

=辞書を通して知らなかった言葉に出会い、それを運用できる力を測ることや、理科や算数・数学での定義を理解し、運用する力を測ること

①フィードバックコメントをノートに貼り、実行する

係り受け解析

よく読める文とそうでない文があるようです。毎日、苦手な教科の教科書も開きましょう。だいたい部分をえらんで1分間集中して書き写すのも、苦手な教科をなくす上で効果的です。

照応解決

よく読める文とそうでない文があるようです。毎日、苦手な教科の教科書も開き、音読しましょう。「それ（ら）」「これ（ら）」がでてきたら、何を表しているかを考えましょう。続けると苦手な教科の文の意味も、よく分かるようになります。

同義文判定

毎日、教科書を開き、音読しましょう。読んだところからだいたい部分をえらんで1分間集中して書き写すことも、読む力をのばす上で効果的です。

推論

すらすら読める文とそうでない文があります。高学年になると、暗記やドリル学習だけでは対応できなくなります。教科書からどのようなことが言えるか考える力を身につけて、進級や進学に向けて準備しましょう。

イメージ同定

数学では、図を書いたり、式を立てたりして考えましょう。また、教科書にグラフや表が出てきたら、その特ちょうを1つ考えるようにしましょう。ノートに書いて、先生やうちの人に見てもらおうのもよいでしょう。

具体例同定

教科書の「～を〇〇という」（例：2でわり切れる整数を偶数という）の形の文（定義文）に注目しましょう。下線をひいて読み上げ、ノートに書き写すようにしましょう。また、それに当てはまる例（例：4や8や0は偶数）を3つ考えましょう。辞書を引く習慣をつけ、使える言葉を増やしましょう。

・毎日、苦手な教科の教科書を開く。
・だいたい部分をえらんで1分間集中して書き写す。

・毎日、苦手な教科の教科書を開き、音読する。
・「それ（ら）」「これ（ら）」がでてきたら、何を表しているかを考える。

・毎日、教科書を開き、音読する。
・読んだところからだいたい部分をえらんで1分間集中して書き写す。

・教科書からどのようなことが言えるか考えノートに書く。

・数学では、図を書いたり式を立てたりして考える。
・教科書にグラフや表が出てきたら、その特ちょうを1つ考え、ノートに書く。

・教科書の「～を〇〇という」（例：2でわり切れる整数を偶数という）の形の文（定義文）に注目し、下線をひいて読み上げ、ノートに書き写す。それに当てはまる例（例：4や8や0は偶数）を3つ考える。

次回は、「RSノート」の作成例を紹介します。

【文責：校長 工藤雅史】